

平成31年度 北海学園大学・各学部 アドミッションポリシー(入学者受入方針)

経済学部 1 部

本学部の教育目標は、建学の精神に基づいて、グローバル化する国際的な経済環境の中で、経済や社会の現状を的確に認識し、変化に対応できる幅広い知識と能力、柔軟な感性を養うこととしています。そのために、日本及び世界の現実や矛盾について、経済学を基礎とした社会科学的視点で理解し、望ましい社会のあり方について考えようとする人、市町村や北海道など、地域の抱えている諸問題を解明し、地域発展の方向を考えようとする人、企業・官公庁そのほかの組織において、直面する課題を具体的に解決する力を身につけたいと考えている人を求めています。

本学部では、大学における学修の基礎として、次のような能力・知識を求めます。それらは高等学校において身につけておくことが大切です。

- 経済的事象に興味を持ち、主体的に学ぶ意欲を持続できる能力。

- 様々な文献・資料を理解し、また自身の考えを文章で表現するための国語及び外国語能力。
- ディスカッションにおいて相手の発言を理解し、また自身の考えを論理的に伝えるための能力。
- 経済学の様々な理論、知識を習得するための数学あるいは社会科学の知識。

上記の能力・知識は次のような入学試験によって評価されます。

- 一般入試においては、国語・英語・数学・社会科学などに関する知識について、本校で作成した問題によってその解答能力から評価します。
- 推薦入試においては、国語・英語・数学・社会科学などに関する知識、経済学を学ぶ意欲、文章理解・論理的な思考能力などを、内申書、志望理由書、本校で作成した問題などによって総合的に評価します。

経済学部 2 部

本学部の教育目標は、建学の精神に基づいて、グローバル化する国際的な経済環境の中で、経済や社会の現状を的確に認識し、変化に対応できる幅広い知識と能力、柔軟な感性を養うこととしています。そのために、日本及び世界の現実や矛盾について、経済学を基礎とした社会科学的視点で理解し、望ましい社会のあり方について考えようとする人、市町村や北海道など、地域の抱えている諸問題を解明し、地域発展の方向を考えようとする人、企業・官公庁そのほかの組織において、直面する課題を具体的に解決する力を身につけたいと考えている人を求めています。また、経済的事象などにより、昼間に仕事を持ちながらも勉学意欲旺盛な人、社会生活の途上にあってもさらなる自己啓発を目的とする人、第一線を退いてからの生涯学習・リカレント教育を希望する人も求めています。

本学部では、大学における学修の基礎として、次のような能力・知識を求めます。それらは高等学校において身につけておくことが大切です。

- 経済的事象に興味を持ち、主体的に学ぶ意欲を持続できる能力。

- 様々な文献・資料を理解し、また自身の考えを文章で表現するための国語及び外国語能力。
- ディスカッションにおいて相手の発言を理解し、また自身の考えを論理的に伝えるための能力。
- 経済学の様々な理論、知識を習得するための数学あるいは社会科学の知識。

上記の能力・知識は次のような入学試験によって評価されます。

- 一般入試においては、国語・英語・数学・社会科学などに関する知識について、本校で作成した問題によってその解答能力から評価します。
- 推薦入試においては、国語・英語・数学・社会科学などに関する知識、経済学を学ぶ意欲、文章理解・論理的な思考能力などを、内申書、志望理由書、本校で作成した問題などによって総合的に評価します。
- 社会人特別入試においては、書類審査と面接により総合的に評価します。

経営学部 1 部

経営学部は、建学の精神に基づいて、「組織を中心とした経営学教育」、「実践志向の経営学教育」、「グローバルな視点に立つ経営学教育」、「情報分析を重視した経営学教育」、「人間行動を重視した経営学教育」を教育理念とし、この五つの教育理念のもと、経営分野の専門知識とそれを活かす実践力をあわせもち、組織や社会の発展に貢献しうるマネジメント能力に優れた人材を育成します。

このために、それぞれの学科で以下のような人を幅広く受入れます。

経営学科

- 高校までの基礎学力を十分に有し、かつ自らの将来の夢と目標をしっかりと持っている人。
- 総合的な知識に基づき、社会の出来事を理解し、客観的に分析できる人。
- 大学で修得した知識を実践の場で活用し、組織の創造性を高めたいと考えている人。
- 企業経営や商品の流通に関心を寄せ、組織のマネジメントやマーケティングのプロフェッショナルを志す人。

経営情報学科

- 高校までの基礎学力を十分に有し、かつ自らの将来の夢と目標をしっかりと持っている人。
- 総合的な知識に基づき、社会の出来事を理解し、客観的に分析できる人。
- 大学で修得したいろいろな知識を融合・応用し、組織の革新に挑みたいと考えている人。
- 企業分析や企業における人間行動に関心を寄せ、情報、会計、心理のプロフェッショナルを志す人。

そのため経営学部では、一般入試において、国語、外国語(英語)を入試科目とし地理・歴史、政治・経済、数学を入試選択科目とすることで、基礎的な日本語・外国語の読解力や表現力、ビジネスコミュニケーション能力のほか、論理的な思考力、物事を数学的に捉えて考える数理的素養、社会を理解する基礎的知識と分析能力を有する学生を求めています。

また、経営学部に入学者までに、各教科(国語、数学、外国語(英語)、地理歴史、公民、理科、情報、保健体育、芸術、技術家庭)の内容を理解し、基礎的な知識を身に付けておくほか、特別活動・課外活動を通じて自主性・協調性、社会貢献に対する意識を養っておくことが望まれます。

経営学部 2 部

経営学部は、建学の精神に基づいて、「組織を中心とした経営学教育」、「実践志向の経営学教育」、「グローバルな視点に立つ経営学教育」、「情報分析を重視した経営学教育」、「人間行動を重視した経営学教育」を教育理念とし、五つの教育理念のもと、経営分野の専門知識とそれを活かす実践力をあわせもち、

組織や社会の発展に貢献しうるマネジメント能力に優れた人材を育成します。

このために、経営学部2部では、以下のような人を幅広く受入れます。

経営学科

- 高校までの基礎学力を十分に有し、かつ自らの将来の夢と目

標をしっかり持っている人。

- 総合的な知識に基づき、社会の出来事を理解し、客観的に分析できる人。
- 企業経営や商品の流通に関心を寄せ、組織のマネジメントやマーケティングのプロフェッショナルを志す人。
- 企業分析や企業における人間行動に関心を寄せ、情報、会計、心理のプロフェッショナルを志す人。
- 職場での問題意識を持ち、解決を図ろうとする行動力のある社会人。

そのため経営学部2部経営学科では、一般入試において、国

法学部 1部・2部

人々の価値観は非常に多様であるため、社会における様々な場面において意見の対立が生じます。法学部では、建学の精神に則り、社会における様々な問題に対してより良い解決策を考案し、組織を先導していくリーダーとしての役割を担えるような人材の育成を目指しています。

以下で示されている各学科が求める人材については1部・2部に共通していますが、2部では、勉学意欲はあるが経済事情の厳しい人、昼間に仕事を持ちながらも勉学意欲旺盛な人、社会生活の途上にあってもさらなる自己の陶冶を目的とする人、第一線を退いてからの生涯学習・リカレント教育を希望する人、なども求めています。

高校では、基本とされる教科をしっかり勉強することが極めて大切であります。国語と地理歴史・公民は、法的素養・政治的素養を身につけるために特に重要であることから、一般入試における1部・2部共通の試験科目に設定されています。

なお、2部では、一般入試によらない課題小論文入試、社会人のための面接方式または小論文方式の特別入試制度が設けられています。

法律学科

人々の意見の対立は究極的には裁判所で解決されますが、法律学科の学生は、裁判所で争われた様々な事例の検討を通じて、バランスのとれた問題解決能力を身につけていきます。そのためには法的素養を備える必要がありますが、この素養を備

人文学部 1部・2部

人文学部は、建学の精神のもと、「新人文主義」を教育理念として掲げ、1993年4月に開設された学部です。人文学部では、「文化を学ぶ、世界と繋がる」をモットーに、現代社会が直面する諸課題に「文化」の視点で応え、他者とともに創造的な未来を切り拓くことで、自らのキャリアを主体的に形成できる人間の育成を目指しています。

1部 日本文化学科

日本文化学科では、建学の精神と学部の教育理念に共感する以下のような入学者を国内外から広く求めています。

- 社会で積極的に活動し、他者とともにより良い未来を切り拓いていく意志のある人。
- 日本文化を学ぶための日本語の力を有し、日本文化に対する知的探究心のある人。
- 幅広い教養を身につけ、日本文化を学ぶことで自らを高めようとする意欲のある人。

また、言語文化（言語学・文学）・思想文化（哲学・芸術学）・歴史文化（史学）・環境文化（文化人類学・人文地理学）の各専門分野に学びつつ、人間と人為の所産である文化について総合的な理解を深めていくカリキュラムを展開しているため、高等学校においては、各教科（国語・外国語〈英語〉・芸術・地理歴史・公民・数学・理科・保健体育・家庭・情報など）の基礎学力をしっかり身につけておくことが求められます。とくに国語は、テキストの読解や論文の作成、コミュニケーションの基礎として、地理歴史と公民（政治経済）は、日本文化の形成過程と特質を理解するうえで、それぞれ必須であることから、一般入試における試験科目に設定しています。また、公募推薦入試では、「小論文」を課し、論理的思考力と文章表現力を見ます。

語を入試科目とし英語、地理・歴史、政治・経済、数学を入試選択科目とすることで、基礎的な日本語の読解力や表現力、ビジネスコミュニケーション能力のほか、論理的な思考力、物事を数学的に捉えて考える数理的素養、社会を理解する基礎的知識と分析能力を有する学生を求めています。

また、経営学部に入学するまでに、各教科（国語、数学、外国語（英語）、地理歴史、公民、理科、情報、保健体育、芸術、技術家庭）の内容を理解し、基礎的な知識を身に付けておくほか、特別活動・課外活動を通じて自主性・協調性、社会貢献に対する意識を養っておくことが望まれます。

えた人材を育成するために、以下のような人を求めます。

- 法に関して幅広い好奇心を有している人。
- 法に関する知識の修得に真摯に取り組める人。
- 正義・公平の理念に基づき、物事を論理的に考えることができる人。
- 他人の意見に関心をもち、それを理解しようと努めることができる人。
- 社会の諸問題につき、具体的な解決策を提示していく意欲がある人。

政治学科

政治学とは、望ましいルールとは何か、ルールはどのように決めるべきかなどを様々な角度から追究していく学問です。政治学科の学生は、様々な領域における政治的諸問題の本質がどこにあるのかを見極め、より多くの人々が納得できる解決策を提案できる能力を身につけていきます。そのためには政治学的素養を備える必要がありますが、この素養を備えた人材を育成するために、以下のような人を求めます。

- 政治に関して幅広い好奇心を有している人。
- 政治に関する知識の修得に真摯に取り組める人。
- 正義・公平の理念に基づき、物事を論理的に考えることができる人。
- 他人の意見に関心をもち、それを理解しようと努めることができる人。
- 社会の諸問題につき、具体的な解決策を提示していく意欲がある人。

1部 英米文化学科

英米文化学科では、建学の精神と学部の教育理念に共感する以下のような入学者を国内外から広く求めています。

- 社会で積極的に活動し、他者とともにより良い未来を切り拓いていく意志のある人。
- 英米文化を学ぶための英語の力を有し、英米文化に対する知的探究心のある人。
- 幅広い教養を身につけ、英米文化を学ぶことで自らを高めようとする意欲のある人。

また、言語文化（言語学・文学）・思想文化（哲学・芸術学）・歴史文化（史学）・環境文化（文化人類学・人文地理学）の各専門分野に学びつつ、人間と人為の所産である文化について総合的な理解を深めていくカリキュラムを展開しているため、高等学校においては、各教科（国語・外国語〈英語〉・芸術・地理歴史・公民・数学・理科・保健体育・家庭・情報など）の基礎学力をしっかり身につけておくことが求められます。とくに英語は、テキストの読解や論文の作成、コミュニケーションの基礎として、地理歴史と公民（政治経済）は、英米文化の形成過程と特質を理解するうえで、それぞれ必須であることから、一般入試における試験科目に設定しています。また、公募推薦入試では、「小論文」を課し、論理的思考力と文章表現力を見ます。

2部 日本文化学科

日本文化学科では、建学の精神と学部の教育理念に共感する以下のような入学者を国内外から広く求めています。

- 社会で積極的に活動し、他者とともにより良い未来を切り拓いていく意志のある人。
- 日本文化を学ぶための日本語の力を有し、日本文化に対する知的探究心のある人。
- 幅広い教養を身につけ、日本文化を学ぶことで自らを高めよ

- うとする意欲のある人。
- 働きながら学びたい、また生涯学習の一環として広く学修しようとする人。

また、言語文化（言語学・文学）・思想文化（哲学・芸術学）・歴史文化（史学）・環境文化（文化人類学・人文地理学）の各専門分野に学びつつ、人間と人為の所産である文化について総合的な理解を深めていくカリキュラムを展開しているため、高等学校においては、各教科（国語・外国語〈英語〉・芸術・地理歴史・公民・数学・理科・保健体育・家庭・情報など）の基礎学力をしっかり身につけておくことが求められます。とくに国語は、テキストの読解や論文の作成、コミュニケーションの基礎として、地理歴史と公民（政治経済）は、日本文化の形成過程と特質を理解するうえで、それぞれ必須であることから、一般入試における試験科目に設定しています。また、公募推薦入試では、「小論文」を課し、論理的思考力と文章表現力を見ます。

2部 英米文化学科

英米文化学科では、建学の精神と学部教育理念に共感する以下のような入学者を国内外から広く求めています。

工学部

工学部は、建学の精神に基づいて、地域の大学として北海道に貢献できる人材の育成に主眼を置いています。なおこれに限定せず広く応用性のある工学教育を行っており、各学科ではそれぞれ以下のような人を求めています。

社会環境工学科

社会環境工学科では、社会環境工学を学ぶことに対して強い意欲を持つ次のような人を求めています。

【両コース共通】

- 大学での教育に必要な数学、理科、英語その他の十分な基礎学力を備えている人。
- 常に向上心を持ち、コミュニケーション能力や協調性及びリーダーシップを養う努力をする人。
- 自然現象や社会システムに関心を持ち、環境の保全・創造や、環境と調和した社会の構築に取り組む意欲を有する人。

【社会環境コース】

- 市民の生活を支える社会・都市基盤の整備や維持管理に興味を持ち、これらの分野で社会貢献を目指す人。

【環境情報コース】

- 市民の生活を支える社会や都市の仕組みに関心があり、市民の安全、福祉などの政策決定や情報化に興味を持ち、これらの分野で社会貢献を目指す人。

建築学科

建築学を学ぶことに対して強い意欲を持つ次のような人を求めています。

- 機能的で美しい建築や住みよい都市をデザインしたいと思っている人。
- 建築や都市の快適性を環境面から追求したいと思っている人。
- 災害に強く、安全かつ耐久性のある建築や都市を造りたいと思っている人。

そのため入試科目も多様な科目の中から選択できるようになっており、文系・理系を問わず受験できます。重要なことは、しっかりと基礎学力と学ぶ意欲を身につけておくこと

- 社会で積極的に活動し、他者とともにより良い未来を切り拓いていく意志のある人。
- 英米文化を学ぶための英語の力を有し、英米文化に対する知的探究心のある人。
- 幅広い教養を身につけ、英米文化を学ぶことで自らを高めようとする意欲のある人。
- 働きながら学びたい、また生涯学習の一環として広く学修しようとする人。

また、言語文化（言語学・文学）・思想文化（哲学・芸術学）・歴史文化（史学）・環境文化（文化人類学・人文地理学）の各専門分野に学びつつ、人間と人為の所産である文化について総合的な理解を深めていくカリキュラムを展開しているため、高等学校においては、各教科（国語・外国語〈英語〉・芸術・地理歴史・公民・数学・理科・保健体育・家庭・情報など）の基礎学力をしっかり身につけておくことが求められます。とくに英語は、テキストの読解や論文の作成、コミュニケーションの基礎として、地理歴史と公民（政治経済）は、英米文化の形成過程と特質を理解するうえで、それぞれ必須であることから、一般入試における試験科目に設定しています。また、公募推薦入試では、「小論文」を課し、論理的思考力と文章表現力を見ます。

です。また、様々な学習や活動をとおして、コミュニケーション能力や協調性、主体性や表現力を身につけた人を求めています。

電子情報工学科

電子情報工学科は、現代社会に欠かせないハードウェアとソフトウェアを活用して社会に貢献する人材の育成を目的としており、学生には論理的な思考方法を身につけた上で、電子工学と情報工学の両面にわたる知識の修得を求めます。そのため、物事の数理的な取扱いに強い興味と関心を示すとともに、世の中のさまざまな考え方を理解し共有しようとする人、さらに、電子・情報・通信などの分野に強い興味と関心を持ち、それらを通して問題を認識・発見し、論理的・創造的に解決できる力を身につけようとする人を求めています。上述の学習目標を着実に達成するために、高校においては、基本とされる教科をしっかり勉強することが大切です。特に数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・A・B、物理基礎・物理、国語（現代文）、英語に力を入れて学習することが望まれます。

生命工学科

生命工学科では、生命科学と情報工学を学ぶことに対して強い意欲を持ち、向上心と好奇心に満ちた次のような人を求めています。

- 動物や植物、人間社会などに関心があり、実験や観察、「ものづくり」が好きな人。
- 人間工学や情報技術あるいは分子生物学やバイオテクノロジーに関心があり、物事を論理的に考えることのできる人。
- 生命や脳のしくみ、人間の行動コミュニケーションなどに興味を持ち、分野横断的に新しい課題に意欲的に取り組むことのできる人。

このため入学試験では、英語と数学に加え、理科（生物、化学、物理から選択）を一般入試の試験科目に設定しています。高校では、これらの科目を中心にしっかりと基礎学力をつけ、自分の頭で考える習慣を身につけておきましょう。また、さまざまな活動を通して、豊かな「人間力」とみずみずしい「好奇心」を養っておいてください。